

大学サッカーサークルにおけるリーダーシップについての研究

A study on the Leadership of university football club

1K04A148-9

田中 創

指導教員

主査 堀野博幸先生

副査 正木宏明先生

目的

リーダーシップに関する研究をするにあたり、まず「リーダーシップ」とは何かということを定義しなければならないが、Stogdill(1974)はリーダーシップの定義はリーダーシップの研究者の数ほどあると述べている。大学スポーツにおいては三隅(1978)が「大学における学生の運動部集団の持つ一つの特徴は集団としての継続期間が相対的に短期間であることに見出されよう。集団成員の出入りが短期に生じるので集団が不安定になり易い。そこには学生集団におけるリーダー達が対処しなければならない集団維持に関する課題があるように思われる」と述べている。大学スポーツ集団に関する研究は野上(1999)や畑(2004)、杉万・取違(1978)らが行っている。その中でも杉万・取違は、大学における課外活動としての学生スポーツ集団(サークル)のリーダーシップの測定尺度づくりを行った。

杉万・取違の研究を基に、大学のサークルスポーツ集団において、実際にとられているリーダーシップの現状と、メンバーが求めているリーダーシップの理想というものを調査することが本研究の目的である。

方法

2007 年 11 月上旬から下旬にかけて、早稲田大学のサッカーサークル(A～F)に所属するプレイヤーを対象に、無記名自記式質問紙法による調査を実施した。調査の結果、無効票 5 人を除いて、6 個のサークル合計で 139 人の回答を回収することができた(回答率 96.5%)。尚、調査項目は個人特性として[a 学年, b サッカー歴, c 練習試合への参加率, d キャプテンや部長などの経験の有無]。リーダーシップ行動として P 行動測定項目 8 項目, M 行動測定項目 8 項目, リーダーシップ PM 類型の外部基準として 9 項目の計 25 項目とした。また、25 項目を理想とするリーダーシップと実際にとられているリーダーシップの 2 つに用いて調査した。

結果

実際にとられているリーダーシップでは、P 行動測

定項目 8 項目の得点を加算し求めた P 得点の平均は 30.1 であり、M 得点の平均は 30.6 であった。理想とするリーダーシップの P 得点の平均は 30.8 であり、M 得点の平均は 31.7 であった(図 1)。現実と理想のリーダーシップを比較して顕著に現れた結果は以下の 2 つである。4 年生の理想の P, M 両得点が高く、有意な差を見ることができた。サークル F は実際にとられているリーダーシップより、理想とされているリーダーシップの方が P・M 両得点ともに 4 得点近く高かった。P に関しては有意な差とまでは呼べないが、M に関しては有意な差であった。

考察

結果から、キャプテン(3 年生)は先輩(4 年生)に対してのリーダーシップが遠慮気味であることがいえ、4 年生に対するリーダーシップを今とは違った、別のアプローチの仕方をしてゆく必要があると示唆できる。また、サークル F のキャプテンは 三隅(1978)が述べているサークル特有のリーダーシップ行動である、「新入生の勧誘を積極的にする」や「練習への厳しさを追求したりする」を積極的に行うことで改善されると示唆できる。

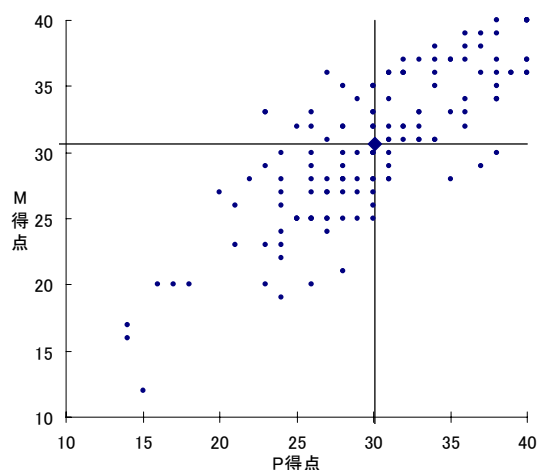


図 1 理想とするリーダーシップ行動の P・M 得点の分布図